

□平成 24 年度自然史博物館活動の評価について

(群馬県立自然史博物館専門委員 宮前 和夫)

群馬県立自然史博物館として、その使命と事業方針を明確に持ち進めて来た活動は、今回の評価結果に見られるように、大きな成果を残されたものと思います。

また、その詳細な分析が、自己評価結果の総括に書かれています。この評価活動の取り組みが、満足度調査に偏らず、博物館の各事業を通して、県民に伝えたいと考えていた部分はどうであったか、その分析がしっかり出来ているものと思います。ぜひ、館としての人的・物的条件の不足するところはあるかと思いますが、見えてきた課題を、一步でも改善出来るよう努めて頂きたいと考えます。

尚、次年度へ向けた具体的な改善の手だてを考えることは、館の全職員のこれからの議論を待ちたいと思いますが、一点だけ、ご検討頂ければと申し上げます。平成 24 年度自然史博物館活動の評価結果（自己評価結果（2）8 行目）に書かれている、「・・・県民との連携による調査研究が少ない傾向は変わらなかった・・・」が大切なポイントになるものと考えます。この点に対する新しい踏み込みが、今後の博物館の姿を変えて行くものに繋がるのではないのでしょうか。そこで、その一つの指針にはなりません、今後の博物館が伝えて欲しいメッセージの一例を申し上げ、私の意見としたいと思います。それは、県民参加型のリサーチ活動を導入することで、私達人間と自然が、今、一番向き合わなければと、だれもが気付かされている分野を、博物館事業（調査活動）を通して県民と取り組みながらいっしょに考えて行く、そんな新しい博物館の姿を実現して頂きたいと思います。

(平成 25 年 10 月)